

- ※ 1 平成 25 年 12 月に配水課へ移管
- ※ 2 平成 25 年 12 月に被災地譲渡
- ※ 3 平成 25 年 12 月に納車
- ※ 4 平成 25 年 12 月に廃車
- ※ 5 平成 25 年 12 月に納車
- ※ 6 平成 25 年 12 月に納車
- ※ 7 平成 25 年 12 月に納車
- ※ 8 平成 25 年 11 月に納車
- ※ 9 平成 25 年 12 月に廃車
- ※ 10 平成 25 年 12 月に譲渡
- ※ 11 平成 25 年 12 月に納車
- ※ 12 平成 25 年 12 月に廃車
- ※ 13 平成 25 年 12 月に納車

表 2-82 平成 25 年度低稼働自動車集計一覧

	中央	東部 第一	東部 第二	西部	南部 大森	北部	南部 桜丘
合計 (km)	3,992	3,884	508	4,725	2,892	2,920	2,223
対象台数 (台)	5	4	1	7	4	5	5
平均 (km)	798	971	508	675	723	584	444
1 日当たり (km)	2.1	2.7	1.4	1.8	2.0	1.6	1.2

(水道局作成資料より監査人が作成)

(注) 表 2-81 の中から、年間走行距離が 1,200km 未満の公有車を抽出し集計している。

表 2-82 は、年間走行距離 1,200km 未満の公有車の年間累計走行距離を 365 日で除して、支所ごとの 1 日当たり走行距離を計算したものである。この結果、いずれの支所でも、1 日当たり走行距離が非常に短く低稼働な公有車が存在することが分かる。

水道事業は都の重要な基盤であり、それを維持するためには、たとえ低稼働な公用車であっても有事の際に備えて必要であるという考えもあり得るが、逆の見方をすれば、何台保有すれば十分であるのかを説明することができないのであれば、低稼働の公有車が本当に必要なものか分からない。

表 2-83 (参考) 世田谷区駒沢二丁目 61 番地先配水本管 (600mm) 損傷事故

	出勤人数 (人) (運転手としての出張を含む)		車両台数 (台)		
	11/21~22	11/24・29・30	11/21~22	11/24~30	12/14
南部支所桜丘給水課 当時の給水課現員数 及び所有台数	23	3	28 (※1)	9	14 (※2)

(水道局作成資料より監査人が作成)

- ※ 1 現員数は、給水課工務係、漏水防止第一係の合計
- ※ 2 所有台数には分室分は含まない (分室の車の出勤は無し)。

表 2-84 (参考) 多摩管道路部 (多摩地区施設管理業務) 社員数及び自動車台数

	立川管路管理課	町田管路管理課
社員数 (人)	91	65
自動車台数 (台)	37	26

(TSS 作成資料より監査人が作成)

(注) 平成 26 年 4 月現在

表 2-85 (参考) 各支所給水課現員職員数及び軽自動車台数

	中央	東部 第一	東部 第二	西部	南部 大森	北部	南部 桜丘
現員職員数 (人)	46	41	45	43	40	45	46
自動車台数 (台)	23	21	22	22	22	22	23

(水道局作成資料より監査人が作成)

(注) 職員数、台数共に分室分含む。

(意見 1 - 2.5) 稼働の低い公有車について
いずれの支所でも非常に低稼働な公有車が存在している。有事に備え車両を確保しているという事情もあるが、低稼働の公有車が複数台ある場合には、必要な公有車の保有台数及び適切な運用方法を見直されたい。

(7) PR 施設の見直しについて

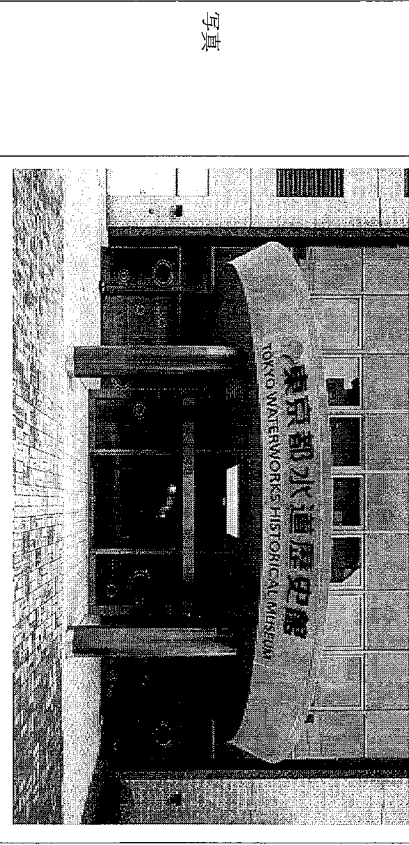
水道局では、水道事業に係る PR 施設として、①東京都水道歴史館（以下、「歴史館」という。）、②東京都水の科学館（以下、「科学館」という。）、③奥多摩水と緑のふれあい館（以下、「ふれあい館」という。）の3施設を保有している。なお、①と②は PR 施設の運営を業務委託により、③は東京都奥多摩町と協定を締結し共同で運営をしている。

① 歴史館の概要について

主に、江戸時代における上水の開設から現在に至る水道の歴史を展示している施設である。

表 2-86 施設の概要

項目	概要
所在地	東京都文京区本郷二丁目7番1号
開館年月	平成7年4月 平成21年6月リニューアルオープン
休館日	毎月第4月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日） 年末年始（12月28日～1月4日）
入館料	無料



写真

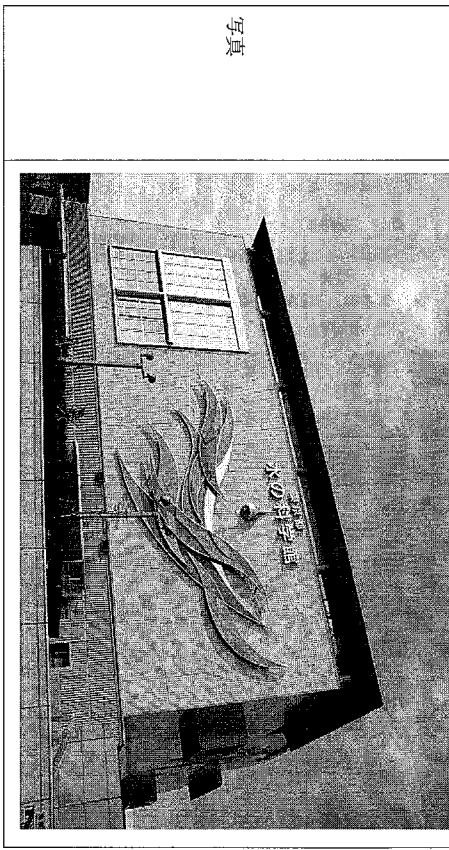
(歴史館ホームページより監査人が作成)

② 科学館の概要について

水の不思議と大切さを科学の視点で紹介し、水と水道事業への関心を深める体感型ミュージアム施設である。

表 2-87 施設の概要

項目	概要
所在地	東京都江東区有明三丁目1番8号
開館年月	平成9年5月 平成22年6月及び平成25年3月リニューアルオープン
休館日	毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日） 年末年始（12月28日～1月4日）
入館料	無料



写真

(科学館ホームページより監査人が作成)

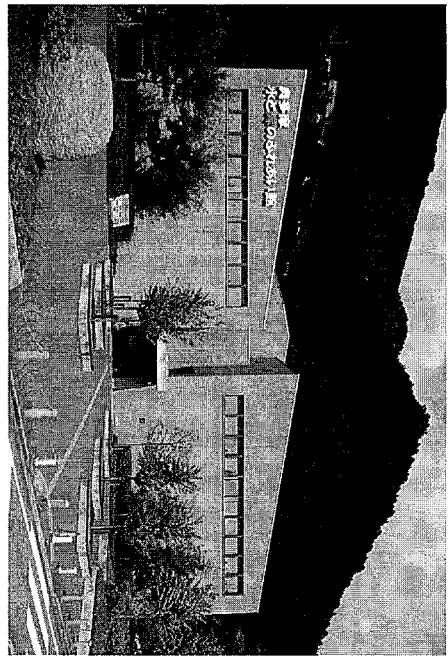
③ ふれあい館の概要について

奥多摩の豊かな自然、ダムの仕組み、水の大切さなどを紹介し、都市と水源地との交流を図ることを目的とした施設である。

表 2-88 施設の概要

項目	概要
所在地	東京都西多摩郡奥多摩町原 5 番地
開館年月	平成 10 年 11 月
休館日	毎週水曜日 (水曜日が休日の場合はその翌日) 年末年始 (12 月 28 日～1 月 4 日)
入館料	無料

写真



(ふれあい館ホームページより監査人が作成)

④ 各 PR 施設の運営について

歴史館、科学館、ふれあい館の各 PR 施設の設置目的は、広く都民や水源地域の住民などに対し、水道事業への理解と協力を得ることにある。この目的を達成するためには、良き理解を得るために施設内容を充実させることも必要であるが、より多くの方に来館していただき、見学してもらうことも必要であり、そのための集客力を高める施策、利便性の向上なども必要であると考えられる。もちろん、地方公営企業としての PR 施設ということから、過大な設備投資・運営費は認められない。

歴史館と科学館は企画コンペによって業務委託先を選定し運営を業務委託しており、ふれあい館の運営は「奥多摩 水と緑のふれあい館に関する協定」に基づき奥多摩町と共同で運営している。
平成 23 年度から平成 25 年度の各 PR 施設の支出額は表 2-89 のとおりであり、毎年合計で 2 億円以上の支出がある。

表 2-89 PR 施設の支出額

施設名	(単位：千円)		
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
歴史館	65,277	65,073	61,941
科学館	108,951	98,736	105,286
ふれあい館	53,612	56,439	55,187
合計	227,840	220,248	222,414

(水道局作成資料より監査人が作成)

また、各施設の固定資産規模と減価償却費は表 2-90 のとおりである。歴史館は平成 7 年 4 月、科学館は平成 9 年 5 月、ふれあい館は平成 10 年 11 月に開館しており、いずれ施設の内外装や施設全体の付帯設備について取替え・更新の時期を迎える。

表2-90 各施設の平成25年度固定資産帳簿価額・減価償却費

(単位：千円)

施設名	帳簿価額	減価償却費
歴史館(※)	513,152	38,614
科学館	1,934,058	137,532
ふれあい館	437,911	24,858
合計	2,885,121	201,004

(水道局作成資料より監査人が作成)

※ 歴史館は、本郷庁舎2号館の一部を間借りしているため、土地・建物等について延床面積相当を記載している。

一方、各PR施設では、水道事業に対する理解を得ることを目的としていることから、いずれも施設を無料で開放しており、多くの方が利用しやすい環境を整備している。ただし、歴史館と科学館は一般開放された駐車場がなく、また最寄りの駅からの距離もあり若干の不便さを感じる。ふれあい館は駐車場があるものの、施設自体が都心から離れている。また、施設が3か所と分散しているため、全てを一日で見学することは難しく感じる。このような感覚は、監査人の印象であり、利用者のニーズ分析などを実施していく必要があるだろう。なお、各PR施設の来館者数の推移は表2-91のとおりである。

表2-91 PR施設の来館者数の推移

(単位：人)

施設名	平成23年度	平成24年度	平成25年度
歴史館	37,597	40,004	37,137
科学館	146,258	122,309	124,943
ふれあい館	199,331 (9,869)	198,815 (10,540)	209,619 (18,128)
合計	383,186	361,128	371,699

(水道局「事業概要 平成26年版」より抜粋)

(注) 括弧内はアンケート実施期間における来館者数

平成23年度…8月12日～14日、20日～21日、27日～28日
 平成24年度…8月11日～12日、15日、18日～19日、25日～26日
 平成25年度…5月9日～6月9日

各PR施設では、施設運営や利用者の利用満足度を向上させるために、来館者数に対してアンケート調査を実施している。各施設のアンケート回答者数及び来館者数に対する回答者数の割合は表2-92のとおりである。この表から分かるように、アンケートの回答者数の割合はいずれの年度、施設においても10%未満であり低い水準にある。アンケート調査を実施するからにはその調査結果を有効に活用することが重要であり、利用者の満足度をより向上させるためにはアンケートの回答率を上げることが重要である。そのためには、例えば、アンケート回答者に記念品を贈呈することや、団体客に積極的に回答して頂けるような方策を講じるなど、アンケート調査の実効性向上に向けた取組も重要である。

表2-92 PR施設のアンケート回答者数及び回答割合

施設名	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	回答者数 (人)	回答割合 (%)	回答者数 (人)	回答割合 (%)	回答者数 (人)	回答割合 (%)
歴史館	1,974	5.3	1,622	4.1	1,236	3.3
科学館	3,437	2.3	1,944	1.6	2,518	2.0
ふれあい館	414	4.2	174	1.7	455	2.5

(水道局作成資料より監査人が作成)

(意見1-26) PR施設の見直しについて

PR施設の運営に係る支出の年間合計は2億円以上を要しており、水道料金支払者の費用負担として決して小さいものではない。また、いずれのPR施設も近い将来に大規模な内装工事や設備全体の取替え・更新工事の時期を迎えるが、歴史館及び科学館についてはそれぞれ、本郷庁舎の一部と有明給水所の上部を利用しており関係部署との調整が必要である。さらに、ふれあい館については奥多摩町と共同運営しており、過去に更新計画を立て一部の施設更新を実施しているが、その後、長期計画は策定されていない。このような状況は、水道料金を負担する者にとって、透明性の観点から決して望ましくはない。

このようなことから、統廃合も選択肢の一つとしてしつつ、利用者ニーズを踏まえて、関係部署と連携を図り、スケジュールを調整することにより、将来の大規模な内外装や付帯設備全体に関する取替え・更新工事の長期計画を策定されたい。

また、利用者の満足度を向上させるために、アンケートの内容、回収方法などを再考し、回収率を上げた上で、そこから得られた回答を活用するなど、利用者目線の意見を十分に取り入れるための方策が望まれる。